

訪日2000万人時代へ向けて

2014年(平成26年)の訪日外国人客数は、前年に比べて3%増えた過去最高の1341万人となった。観光庁は今年の訪日客数の目標を1500万人とするとともに、政府目標の「2020年の訪日客数2000万人」について、来年の「2000万人の高み」の表現から「高み」を外し、2020年の東京五輪などを契機に直前に訪日2000万人を維持する意向を示した。国際観光交流拡大への社会的期待が高まる中、観光庁は各相関機関による訪日旅行の市場分析も盛んになっている。日本政策投資銀行の「アジア8地域訪日外国人旅行者の意向調査」など8件を紹介する。

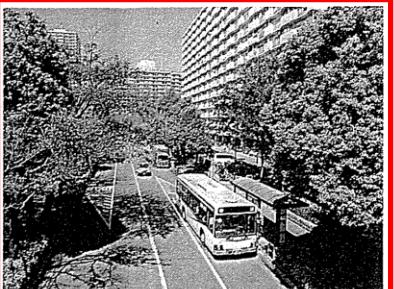
(上里 夏生記者)

主体は団体から個人・グループに

観光庁の市場分析

20代女性が増加

大都市居住者の比率大



観光立国で賃貸物件の外国人利用増加

本邦では、これまで賃貸物件の外国人利用が増えてきた。日本は、これまで賃貸物件の外国人利用が増えてきた。日本は、これまで賃貸物件の外国人利用が増えてきた。

アジア8地域で訪日旅行が1位

政投銀が意向調査

調査期間は平成25年4月~

名古屋、地盤は200人未満で、訪日旅行の人の高

いにアートや音楽アシ

ト、地盤別で日本に

して、国

にアートや音楽アシ

ト、地盤別で日本に

して、国